

岡山県 山崎 広海 さん（48歳）

果樹



新規就農を志した経緯・背景

農業に関わりがなかったが、サラリーマンとして全国を転勤する中、定年がなく家族と同じ場所で暮らすことができ、経営者として独立できる仕事として農業を志した。

当事業の取組内容

活用

- ・研修中の生活費
- ・研修に必要な教材、資材等の購入
- ・就農時の農業機械、小農具、資材等の購入

研修

- ・研修中は休日を除き、就農に向けた貴重な学びの場として、常に受入農家に密着して、研修に集中するように心がけた。
- ・県やJA等から紹介のあった研修会には欠かさず参加し、研修生同士の情報交換もできて、よい刺激となった。
- ・まちづくり協議会活動や地域の集落活動へ積極的に参加したことで、集落の人に快く受け入れてもらい、顔を知ってもらった。
- ・家族に研修での出来事やぶどうの話を積極的にすることで、同じ気持ちで就農に向かっていけるよう心掛けた。

今後の取組

- ・高品質なぶどうを安定して作り続けることで、魅力ある農業経営を確立する。
- ・新規就農した仲間と連携して栽培技術を高め合うことで、次の新規就農希望者にとって魅力ある産地を作る。

就農状況と今後

研修（H29～H30年）

ぶどうの栽培技術、
経営管理、仲間づくり

- ・平成29年に当事業を活用し、**研修を開始**
- ・研修2年目に後輩の研修生が加入、助言を行う
- ・就農計画の認定申請

就農準備（H29～H31年）

ぶどう
(39a うち新植が33a：就農時)

- ・受入農家の紹介で作業小屋と農地の借受を予約
- ・就農地への移住を考えていたが、子育てを考え居住地を選定

現在（就農8年目）

ぶどう（63a）

- ・ピオーネ、シャインマスカット主体
- ・担い手支援チームに参加し後輩研修生を支援
- ・地元酒造会社で日本酒造りに携わり、地域活性化に貢献

今後の目標（就農10年後）

ぶどう（63a）

- ・借受けた成園の計画的改植
- ・安定した雇用労働力の確保
- ・継続的な栽培技術の向上
- ・新規就農希望者を支援
- ・井原市芳井町の活性化

鳥取県 馬田 雄大さん（24歳）

稲作



新規就農を志した経緯・背景

幼い頃から祖父や父と一緒にトラクターに乗る機会があった。また、小学1年生の時に父が祖父の跡を継ぎ、小学6年生の時には地域の農地を集積することにより、経営規模を拡大した。そんな家族の姿を見て、自分がどのようにこの経営を維持発展させようか考えるようになり、鳥取県立農業大学校を卒業後、新規就農（親元就農）した。

当事業の取組内容

活用

- ・鳥取県立農業大学校で就農研修するための、学費や授業料に充てた。
- ・ドローン直播等の先進地視察費用等に充てた。

研修

- ・身体的負担を減らすことにより、特に若い人から支持される農業（スマート農業）を目指し、令和4年4月にドローンの操縦資格を取得。
- ・中国四国ブロック農業大学校プロジェクト発表会で「ドローンを活用して持続可能な農業を目指す」と題して発表し、優秀賞を受賞。全国プロジェクト大会では優良賞を受賞。
- ・研修最終年に直播栽培を試験実施し、就農1年目に湛水直播栽培の経営面積を拡大、円滑な就農開始を実現した。

今後の取組

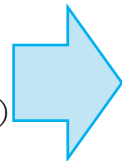
- ・令和7年4月1日、父とともに合同会社Mirai farmを設立。同年8月28日には、スマート農業実施計画（生産方式革新実施計画）の認定を受けた。
- ・今後は、農業用ドローンを活用した直播栽培体系を中心とした栽培と作期の異なる品種の導入により、労働生産性及び収益性の向上を目指す。

就農状況と今後

研修

（R3年4月～R5年3月）

- ・令和3年に当事業を活用し、研修を開始
- ・鳥取県立農業大学校（作物専攻）
- ・作物の基礎、農業簿記、農業機械の操作方法、近代的農業経営技術、先進農家視察など



就農準備

（R3～R5年）

- ・近隣農家からの情報収集
- ・作付計画の策定
- ・父と将来の経営計画の構想を立てる。
- ・資材高騰の対策検討



現在（就農4年目）

- ・面積拡大に伴い、乾燥調製施設を建設中
- ・高温耐性品種・多収品種の作付けを増やし、生産性向上を目指す。



今後の目標（就農4年後）

- ・現在の約24haの水稲湛水直播面積を30haに増やす。
- ・農業用ドローンを活用し、更なる省力化を図る。

山口県

廣林 政憲 さん (50歳)

水稻



新規就農を志した経緯・背景

基盤整備事業に伴い、両親への耕作依頼が増加していたが、高齢の両親は体力面の不安があったため、自分に経営継承の相談があった。生まれ育った地元農地を守りたいと考え、民間企業を退職し、親元就農することを選んだ。

当事業の取組内容

活用

- ・ 研修や資格取得の費用
- ・ 農作業用品の購入費用
- ・ 仲間づくりの費用

研修

- ・ 農業に必要な免許や資格をできるだけたくさん取得した。
- ・ 農業法人や認定農業者へ積極的に研修へ行き、経営を学んだ。
- ・ 水稻の基本知識の習得に加え、露地や施設野菜の研修にも可能な限り取組み、就農後の経営を模索した。
- ・ 行政と連携を取りながら、基盤整備後の耕作面積を、両親の経営の約 2 倍を目標とした規模拡大計画をたてた。

今後の取組

- ・ 先進農家と連携し、米のブランド力向上を目指す
- ・ 経営拡大に向けた計画的な農地の集積と労働力の確保
- ・ 異業種とのコラボレーションによる農業の魅力拡大と発信
- ・ 農業や地域コミュニティに係る組織の役員を担い、地元や周辺地域に農業に関わる人を増やしていきたい

就農状況と今後

研修 (R 2 年)

- ・ 令和 2 年に当事業を活用し、農業大学校やまぐち就農支援塾で 1 年間研修
- ・ 米・麦・大豆の栽培管理、農機具の操作・メンテナンスの技術習得

就農時 (R 3 年～)

- ・ 令和 3 年に親元就農 (5 ha)
- ・ 令和 5 年にインボイス制度開始とともに、米の小売業開始
- ・ 令和 7 年より息子 (25 歳) が経営に参画

現在 (就農 6 年目)

- 水稻 (11ha)
- 野菜 (0.5ha)
- ・ 令和 8 年 1 月に両親の経営をすべて継承
- ・ 認定農業者として認定

今後の目標 (就農 10 年後)

- ・ 法人化
- ・ 農地拡大 (現状の 2 倍)
- ・ 雇用の創出 (若者の誘致)
- ・ 販路拡大
- ・ ブランド力強化
- ・ 他産業との連携
- ・ 地元の活性化

愛媛県 井上 大佑 さん（42歳）

果樹



新規就農を志した経緯・背景

えひめお手伝いプロジェクトで収穫ボランティアに参加し、西宇和地区の良さに惹かれ研修。研修中に支援チームの方から声がかかり、第三者継承での就農に至る。

当事業の取組内容

活用 ・研修中の生活費

研修 ・作業をする際に、なぜその作業を行うのかを明確にすることが難しかった。
そこで、情報収集で知り得たデータを活用し、根拠立てて作業に取り組んだ。
・第三者継承での就農であったため、農地や倉庫の取得が容易であった。
また、親方が近くにいる環境であるため、栽培技術に関する疑問等もすぐに解決できた。

今後の取組

歳をとれば、親方が自分にしてくれたように次代に継承したいと思っている。
それまでに自分にしかない技術をしっかりと磨き、園地や倉庫等の施設・設備だけでなく技術も跡継ぎに継承したいと考えている。
継承は早期に行い、跡継ぎの育成を行いながら、生産に携わりたい。

就農状況と今後

研修（R 2 ～ R 3 年）

- ・令和 2 年に当事業を活用し、研修を開始
- ・JAにshawで研修を受けていたが、第三者継承による経営開始となったため、研修期間を短縮



就農準備（R 3 年）

- ・研修中、お世話になった農家からの第三者継承であったため、基本的に機材の購入等は行っていない。



現在（就農 5 年目）

- ・就農時の経営面積は 50 a であったが、順次規模拡大を行っており、認定時の目標であった 150 a まで拡大している。



今後の目標

- ・ネット販売の充実
- ・6 次産業化の実施



法人化の実現
パート従業員の常勤化

香川県 木村 和史 さん (33歳)

果樹



新規就農を志した経緯・背景

家業が農業であり、幼いころから農業に興味があった。2017年ロンドン世界陸上の日本代表となり、現地で「スポーツと食」の繋がりの大切さを身近に経験した。そんな中、地元でブドウ農家の後継者確保の課題に直面したため、アスリートのセカンドキャリアの実現に向け、農業を始めようと思った。

当事業の取組内容

活用

- ・ 農業機械の更新、購入
- ・ ハウスの修繕、新設
- ・ 資材等購入に係る運用コスト

研修

- ・ 県立農業大学校で研修する傍ら、就農品目であるブドウについて、地元農家（現在の師匠）の手伝いをすることで、栽培技術の早期習得につながった。
- ・ 先輩農業者や関係機関が出席する交流会に参加した。
- ・ 主な出荷先であるJAと連携して、就農前から部会に入り、情報収集を実施した。
- ・ 就農意向を周囲の人に伝えることで、農業経営開始と同時に成園を譲り受けることにつながった。

今後の取組

- ・ 近隣の遊休農地（25a）への規模拡大とともに、6次産業化を目指し、雇用を含めて、事業の幅を広げていきたい。
- ・ 小学生を対象にした陸上教室を通じて、「食の大切さ」を伝えることで、「スポーツと食」の繋がりを発信していきたい。
- ・ 農業をアスリートのセカンドキャリアの選択肢の1つとして、自身の経験をもとに支援していきたい。

就農状況と今後

研修（R 4 年）

農作業全般
果樹の栽培・剪定等

- ・ **令和 4 年に当事業を活用し、研修を開始**
- ・ 地元農家でも技術習得
- ・ 販路の検討

就農準備（R 4 ～ R 5 年）

後継者確保が課題の樹園地を
継承（25a）

- ・ 3aのハウスを自主施行
- ・ 加入する部会の決定
- ・ 交流会で様々な知見（雇用等）を習得

現在（就農 4 年目）

就農時に新植した園地の
生産物が出荷開始

- ・ 販路開拓（JA、市場、EC サイト、ふるさと納税etc）
- ・ 県「みどり認定」の申請準備
- ・ 農業所得は約250万円

今後の目標（就農10年後）

規模拡大を目指し、日々課題解決
に取り組む

- ・ 近隣遊休農地解消に向けた規模拡大
- ・ 6次産業化に向けた事業拡大
- ・ 獣害対策（イノシシ）の徹底

徳島県 古志 晋也 さん (52歳)

果樹



新規就農を志した経緯・背景

母の地元である上勝町への移住を考えており、祖父母が育てるスダチ、ユコウ、ユズなど香酸カンキツの魅力に惹かれ、自らも栽培に挑戦したいと考えた。

農業で生計を立てるだけでなく、耕作放棄地の解消や中山間地域の景観維持にも貢献したいとの思いから就農を決意。

当事業の取組内容

活用

- ・ 冷蔵庫や倉庫などの農業設備を整備し、安定した出荷体制を構築した。
- ・ 就農初期段階の経営負担を軽減し、技術習得と経営基盤の確立に集中できた。

研修

- ・ 徳島かんきつアカデミーで1年間学び、栽培管理や剪定技術を習得するとともに、アカデミーでの農家研修等を通じて先進農家との人的ネットワークを構築した。
- ・ 自ら園地の確保や借受交渉を行い、市町村やかんきつアカデミー、農業支援センターの助言を受けながら就農後を見据えた経営基盤づくりを進めた。

今後の取組

- ・ 栽培面積を維持しながら、さらなる品質向上に取り組んでいく。
- ・ 選果機や貯蔵用冷蔵庫を導入し、作業効率と商品価値を高める。
- ・ 加工や販売にも挑戦し、上勝町の香酸カンキツの魅力を全国へ届けていく。

就農状況と今後

研修 (R 4 年)

- ・ **令和 4 年に当事業を活用し、研修を開始**
- ・ 徳島かんきつアカデミーで1年間研修
- ・ 果樹の栽培管理、剪定等を学んだ。
- ・ 研修中から優良園地を探した。



就農初期 (R 5 年～)

- ・ J A 東とくしま 上勝町香酸かんきつ部会
- ・ 作付面積22a
- ・ 経営開始資金を受給
- ・ 自身で近隣の優良園地を探し、農地の借上げ交渉し、面積拡大
- ・ 県単事業を活用し、設備投資した。



現在 (就農 4 年目)

- ・ J A 東とくしま 上勝町香酸かんきつ部会
- ・ 作付面積62a (スダチ35a、ユズ20a、ユコウ7a)
- ・ 青年等就農計画の目標を順調に達成している。
- ・ 系統出荷が中心



今後の目標 (就農 5 年後～)

- ・ 栽培面積を維持しながら、品質の向上に取り組んでいく。
- ・ 選果機や貯蔵用冷蔵庫を導入する。
- ・ 販路の多角化を目指す。